

傾聴喫茶カフェ・デ・モンク

16日、東京で初開催

高野山真言
宗龍生院

傾聴喫茶「東京カフェ・デ・モンク」が16日、東京都港区の高野山真言宗龍生院を会場に初めて開かれる。曹洞宗通大寺（宮城県栗原市）の金田諦應住職が東日本大震災の被災者を対象に始めたカフェ・デ・モンク。現在、北海道や関西、九州など全国に広まっており、東京では「都心で誰もが安心して、ホッとできるユニークな空間」を目指す。

東北大実践宗教学寄附

講座が開く臨床宗教師研修を修了した高野山真言宗僧侶の井川裕寛さんが企画。マスターとして出迎える。関東在住の研修同期生らの他、宗教者以外もボランティアで参加する。

時間は午後0時半から同4時まで。洋菓子とコーヒー付きで300円。ジャズピアノスト、セロニアス・モンクの曲やハープの生演奏をBGMとする。

して流し、いす坐禪体験や数珠作りなども行われる。

初開催ということもあり、手探りで準備を進めている。金田住職に相談し、すでに手作りの看板も送ってもらった。井川さんは「都会は人間関係が希薄だが、来ていただき、ちょっと一息ついてもらうことで、心をつなぐ役割が果たせるのでは。間口を広げて定期的に様々な場所で開催、東京らしいカフェ・デ・モンクにしていきたい」と話した。

（佐藤慎太郎）